

久しぶりの月曜朝礼です。よろしくお願  
いします。さて、先週の土曜日、四月二十日  
は、「郵政記念日」でした。郵政記念日とい  
うのは、一八七一年の四月二十日に、今のよ  
うに切手を貼った手紙やはがきをやり取りす  
る郵便の仕組みが始まったので、それを記念  
する日のことです。



それまでは、足の速い「飛脚」ひきやく  
という人が手紙などを運んでいましたが、今  
に続く郵便配達の仕事を作ったのが、「日  
本近代郵便制度の父」と言われる、「前島密  
」まへじま ひそか」さんです。

前島さんは、「郵便」「切手」「はがき」  
「手紙」という言葉を作った人だとも言われ  
ています。この前島さんが日本の郵便制度を  
作るにあたって、親切にアドバイスをしてく  
ださったアメリカ人がいらつしやいます。

その方は前島さんに、「通信は言わば血液  
のようなもので、駅通（えきてい）今で言う  
郵便と交通運輸の仕組みのこと）は、血管の  
ようなもの。この「駅通」がふさがると、血  
液のような「通信」が「国」という体を循環  
することができなくなる。通信が滞りなく全  
国を巡ることによって活発で元気な国が出来  
上がるのだと教え、切手の貼ってある書状を

見せ、その役割を丁寧に説明してくださった  
のだそうです。

前島さんは、アメリカの郵便制度の話を聞  
いて同じような仕組みを作りたいと考えたよ  
うです。そうこうするうちに、当時、郵便制  
度が最も進んでいたイギリスへ渡るチャンス  
が前島さんに訪れます。

前島さんは、切手を買うことによって郵便  
の料金を前払いする仕組みは理解できたよう  
ですが、切手の再使用をどうやって防ぐかは  
まだ分からなかったようです。

イギリス行きの船はアメリカの郵便船で、  
その船長に伺ったところ、使用した切手は消  
印を押すことによって二度と使用できないよ  
うにすることを知り、早速、この方法を実行  
に移させたのだそうです。

この頃の郵便ポストは、木製で縦長の四角  
いポストで、色は黒。「郵便箱」と書かれて  
いました。この字を「垂れ便箱」と読み違え  
たのか、郵便箱の中に用を足してしまう人!  
がいたのだとか…。

郵便制度について教えてくださったアメリ  
カ人から、前島さんは英語や数学も教えてい  
ただいていたようです。同じように、早稲田  
大学を作った大隈重信さんもこの方から英語  
や数学を習っていたようです。

さらに言うと、歴史好きの人はその名を知  
っているでしょう、「高杉晋作」という人も

この方から、アメリカでは一般の人から大統  
領が選ばれることや階級間の差別がないこと  
などを聞いていたようです。おまけに、この  
アメリカの方は「勝海舟」さんとも交流があ  
ったようです。早稲田大学の元になった学校  
の名前を「東京専門学校」と言います。前島  
さんはこの学校の校長先生も務めました。

前島さんや大隈さんを教えたアメリカ人。  
その人の名は、かのチャニング・ムーア・ウ  
イリアムズ。

そうです。「立教」の創立者チャニング・  
ムーア・ウイリアムズ主教、その人なのです。

大正時代の日本聖公会の有志の方々が刻ん  
だウイリアムズ主教の墓碑にある「道を伝え  
て己を伝えず」という言葉の通り、自分に  
いて知られること、目立つことを徹底的に嫌  
っておられたウイリアムズ主教。

日本の郵便制度が整備された陰にしてくだ  
さり、歴史上著名な方々や、早稲田大学を創  
立した方々にも影響を与えたと思えるウイリ  
アムズ主教。すてきでしょう！

立教学院はこの二〇二四年、一五〇歳の誕  
生日を迎え、五月の連休明けには記念の式典  
やイベントが行われます。

ぼくたちの学校を作ってくださいだったウイリ  
アムズ主教の謙虚な姿勢を誇りに思いつつ、  
創立一五〇周年を迎えたいと思います。

(立教小学校校長 田代 正行)